

【 花の期 弥生 】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「振り返り そして花を咲かせましょう」

今年の冬は寒暖の差が激しく、三月に入ってから積雪など戸惑うことが多くありました。また、インフルエンザをはじめ風邪が蔓延し、改めて「健康」管理の大切さを考えさせられた冬でもありました。そして三月。いよいよ一年間のまとめを行う時期になりました。この一年の自分を振り返ると同時に、新たなステージに向けた準備も行ってください。四月に入学してきた一年生も、立派な中学生になりました。二年生は生き方探究チャレンジ体験、探究活動などを通して、社会への一歩を踏み出しました。三年生は中学校最高学年として凛々しい姿をみせてくれました。そして、間もなく新たな社会への入口が待っています。

さて、下京中学校ではこの一年、「学習と生活」の「集団と習慣」を整え、「心とからだ」の「健康と安全」に気を配ろうというキーワードを掲げ、様々な活動を行ってきました。合唱コンクールをはじめ、三年生を中心に学級や学年の「集団」としての力を発揮した行事もたくさんありました。一人一人が集団の一員として自覚し、仲間と共に創りあげてきた集団が随所に見ることができました。読書や家庭学習の習慣づくりにも取り組んできました。課題を残した人もいます。反省は反省としてしっかり自分のものとして、次の行動に活かしていくことが大切です。明治の文豪夏目漱石は次のような言葉を残しています。

「あなたの生涯は過去にあるのですか、未来にあるのですか。君はこれから花が咲く身です。『野分』「今のうちの一挙一動は、みな将来、実となって出てくる。決してゆるがせにはいかぬ。人間だいたい価値は十八、十九、二十くらいの間できまる。慎みたまえ。励みたまえ。『書簡・明治35年3月10日』」（漱石“こころ”の言葉 矢島裕紀彦編）

草木が春を迎える準備しているように、皆さんも悩みや不安を抱えながらも、人生の大きな花を咲かせる準備をしているところでもあります。皆さんは、生涯の中でとても重要な時期を生きています。この一年のまとめをするとともに、これからも様々なことに挑戦し、自分を磨く努力を続けてほしいと思います。そして花を咲かせ、実をつけることができるように励んでいきましょう。



〈3月1日 雪の朝に学校から振り返る〉